

# 毎日新聞

発行所 北九州市小倉北区榎原町13-1 (郵便番号802)  
毎日新聞 西部本社  
電話 (093) 541-3131  
福岡支店 5-11038  
郵便振替口座 下関 1-11354  
© 毎日新聞社 1987

麦から、ビール。  
さとうきびから、味の素。



うま味調味料

覚せい剤 日本に地下組織  
台湾ルート 独走 米政権内から批判  
国防長官 暮らして役立つ「マネー情報」  
北勝海、小錦破り全勝守る

## 定期検診から石綿汚染発見

### 産業界 発がん防止指導に効果

断のエックス線検診で発見できる胸膜ブランク(肥厚)から被検者のアスベスト粉じん吸引歴を突き止める共同研究を行い、七百、久留米大医学部(福岡県久留米市)で開かれた日本産業衛生学会九州地方会で発表した。

石綿関連労働者や家族、地域住民が知らないうちにアスベストを吸い込んでいた事実を確認する手法の一つで、発がんの危険防止の指導ができるなど、効用は大きい。この種の研究は九州では初めて。発表した同教養の高橋謙医師(以下)によると、胸膜ブランクは胸部、横隔膜、心臓のな

どの側胸膜が変質するもの。古くは石炭化しやすく、エックス線フィルムには白く映る。それ自体病気でないが、過去におけるアスベスト吸引の指標として最近、国際的に注目を集めている。

調査対象となったのは、北九州八幡東区と同衛生会診療所で、五十七年四月から六十二年三月までの四年間に定期健康診断を受けた北九州地区の労働者ら延べ約二十万人。同研究所所長(現在は非常勤)の瀬良好澄・国立近畿中央病院名誉院長との協力で胸部エックス線間接フィルムを撮影、胸膜ブランクの上の確率でアスベスト吸引歴

発見された三十六人(全員男性)についてエックス線直接撮影と詳細な問診を行った。その結果、三十六人のうち二十二人が配管、ボイラー作業など直接アスベスト粉じんに接する作業に従事した経験がある。これらに作業現場の近くといった間接作業者を含めると二十七人(七五%)に達した。残り九人はアスベストとの関連は不明だが、本人の記憶があいまいで判定不能のケースも含まれている。

このデータは疫学的な立証手続きを経ていないため「胸膜ブランクがあれば七五%以上の確率でアスベスト吸引歴がある」とは言い切れない。定期健康診断が吸引歴確認のきっかけとなる意義は大きい。アスベストによる肺がん発生率は通常人の五〜八倍、喫煙と重ると五十倍以上との研究もあり、禁煙指導などによる発がん防止が可能になると期待されている。

アスベストによる健康障害は、じん肺、肺がん、がんの一種の中皮腫(しんじょう)などがある。このうち中皮腫は比較的微量の粉じん吸引者でも二十〜三十年後になって発症する可能性があるという。このため欧米では、直接の労働者だけでなく、その衣服に接



瀬良名誉院長



高橋医師



佐藤 恵

## 佐藤(福大)が

### 女子走り高

福岡市の平和台陸上競技場、年に十七日行われた九州学生陸上選手権女子走り高跳びで、佐藤恵(福岡大三年)が1.92メートルの日本新記録を達成し、佐藤恵は五十六歳で